

第2回原子力円卓会議

1998年10月26日

(財)電力中央研究所 上席研究員・東京大学客員助教授

鈴木 達治郎

1. 新円卓会議、新原子力長計に望むこと

(1)計画から戦略へ

- ・不確実性の考慮
- ・資源枯渇、ゼロリスク、技術ニーズの不可避性、経済性

(2)路線提示から選択肢提示へ

- ・政策目標の明確な提示
- ・その目標を達成する上での選択肢は何か、その得失はなにか。
- ・選択肢間の比較、組み合わせが必要

(3)原子力政策からエネルギー・環境政策へ

- ・原子力はエネルギー・環境政策全体の中で議論すべき
- ・他のエネルギー選択肢との比較、組み合わせの議論が必要

(4)意思決定プロセスの民主化

- ・「合意形成」の持つ意味
- ・プロセスの重要性：参加意識、公平性、透明性
- ・意思決定の説明責任、公共利益の反映、政策評価と見直し

2. エネルギー供給における原子力の役割：多様性の持つ価値

- ・多様性インデックスによる比較：日本とフランスの違い
- ・原子力・化学燃料・再生可能の組み合わせ：先発・中継ぎ・抑えの役割分担
- ・エネルギー効率改善の戦略的価値が最も高い：環境、安全保障、経済効率の改善

参考文献

- [1] 鈴木達治郎、「新たな原子力政策への提言」、エネルギーレビュー、1998年11月号、特集「新原子力長期開発計画、新円卓会議にのぞむこと」より、pp.4-7.
- [2] Andrew Sterling, "Diversity and ignorance in electricity supply investment: addressing the solution rather than the problem," Energy Policy, March 1994, pp.195-216.